

議会報告「市民との意見交換会」

平成31年2月1日に一般社団法人兵庫県猟友会加西支部と2月8日には宇仁郷まちづくり協議会、九会地区ふるさと創造会議、下里地区ふるさと創造会議と議会報告並びに意見交換会を行いました。そこで述べられたご意見の一部を紹介します。

2/1

兵庫県猟友会加西支部

テーマ

「有害鳥獣駆除の現状と対策について」



○これまで、下里・賀茂・九会地区の被害は少なかったが、全域でふえている。一方、猟友会の会員は45年前には264名で、うちわな猟の会員は5名だったが、現在、銃猟は27名、檻やワイヤーによるわな猟が54名という状況で、主流はわな猟となっている。

獣害対策として、銃による駆除の要請も強いが、猟銃の所持についても許可が厳しく、会員の高齢化で後継者問題が大きな課題。

駆除委託事業では、6月から8月を中心にわなによる駆除活動を54名で行っている。現在の委託料では、1日当たりわずかな支給(300円)しかできない状況。

○金網設置などの効果でシカ被害は減ってきている。イノシシは学習能力が高くわなでの捕獲は困難で、猟犬と銃による捕獲が望ましいが、住民の理解が難しくなっている。獣害対策として、銃による駆除活動に対する住民への啓蒙が必要。



○安全に配慮し、猟期に活動していても、警察への通報がある場合もある。一般市民の理解が必要。

○銃による駆除が困難になっている。猟友会の駆除活動の見学会などで市民の理解を得たい。

○上若井地区では、金網と電柵の併用で、被害は年に1回程度まで減っている。一方で、山に入り

くくなり、年々山が荒れてきている。怖さを感じる。

○山が荒れ、立ち枯れや倒木も多く駆除活動にも支障がある。

○富合地区では、わな猟の3名で活動している。活動できる有資格者をふやすことが必要であり、資格取得費用の補助の拡充を求めたい。



○処分の方策は、解体処理の施設を作り、ジビエ料理への活用や、現在では4トン車を改良した解体車もある。

○多可町のような処理施設や、流通経路の確保を含めた対策が重要。

○わな猟でも、シカ個体群管理事業の銃器による駆除活動でも、わずかの出役費しか支給できない。

○金網対策は進んでいるが、山に入れない状況もある。猟友会の駆除活動費用にも配慮を求めたい。



○銃を使える場所がない。また制度上、禁猟区でも、獣害駆除の「とめさし」には銃は使えても、逆に猟期には銃が使えない。

○青野ヶ原の獣害対策については、2年前に青野ヶ原駐屯地業務隊長と協議を行ったが、小野市や加東市に隣接しており、猟犬や銃器の使用は困難と判断して、九会地区に4基の箱わなを設置している。土地所有者との関係でむやみにふやせない。制約がある中、一生懸命活動しているが、頑張るほど猟友会としては、赤字の状況である。

○獣害駆除の専従班を5名から10名の嘱託職員で組織すればどうか。また、京都市などでは、有害獣一頭あたりの補助が充実している。

○猟友会は駆除を本来の目的としていない。趣味として猟をしている。

駆除協力については、保護と管理が重要であり、協力は惜しまないが、会員からは厳しい意見も出ている。一気に改善とは言わないが、委託費の改善を求めたい。

